

計画推進評価部会における意見と県の対応

資料1-3

プロジェクト名	NO	委員名	意見	県の対応（案）
1 未病	1	山本委員	数値目標3「特定健康診査・特定保健指導の実施率」に設定されている目標値は、過去の推移から見ても高めの設定に思われる。適切な評価を行うためにも、計画策定時の目標値の設定水準について、検証する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
1 未病	2	伊達委員	プロジェクトのねらいの実現に向けた人員配置や予算配分を適切に行い、職員が目標達成にやりがいを感じられるような組織運営を行っていく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
1 未病	3	伊達委員	特定保健指導に対する期待値が無い中で、いかに広報で努力をしたところで先に進まない、という構造的な問題を踏まえ、今後の対応を検討する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
1 未病	4	内田委員	「未病」は新しい概念であり、県の取り組みも始まったばかりであるため、成果がまだ見えないのはやむを得ないが、さらに取り組みを進め、成果を現していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
1 未病	5	中西委員	「未病」の概念が県民にどれだけ普及するかが課題であり、そうした観点から言えば「やや遅れている」と言わざるを得ない。健康に対する意識が低い県民に、どれだけ周知させられるかが重要である。	二次評価（案）に反映しました。
1 未病	6	関委員	「未病」対策は先駆的な取り組みであり、プロジェクトのねらいを達成するためには「未病」概念の浸透が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
7 海外展開	1	内田委員	MOUの締結やミッションの派遣をした後、具体的にどのような成果があったのかを見えるようにすることが必要である。	二次評価（案）に反映しました。
7 海外展開	2	伊達委員	企業が海外展開する際のボトルネックが何なのかといったことや、そのボトルネックに対して県としてどういった支援を行うのかということを整理し解決策を提示していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト名	NO	委員名	意見	県の対応（案）
7 海外展開	3	川崎委員	ベトナムの神奈川インダストリアルパークについて、MOUをたくさん締結している中、どのような業種でどのくらいの企業が進出したかなど、具体的な取組みが数値に結びつくようにする必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
15教育	1	内田委員	グローバル化に対応した教育の推進にあたっては、「英語を話すことのできる教員の数が増えているのか」といった点も一つの指標になると思うので、検討が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
15教育	2	内田委員	例えばTOEICの点数や資格など、具体的に数値を把握できる指標を評価の判断材料とする必要がある。	評価報告書の記述を修正しました。
15教育	3	山本委員	数値目標②「生徒にICT活用を指導する能力」が高まったと感じる教員の割合」はこれまでの推移をみると、毎年5%ずつ上げるという目標水準の設定のあり方に疑問がある。端的に二次評価をしなければならないということを踏まえると、数値目標の設定については、引き続き検討が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
15教育	4	中西委員	数値目標だけで教育全体を評価できるわけではないが、やはり設定したからには尊重すべきである。数値目標②「生徒にICT活用を指導する能力」が高まったと感じる教員の割合」は現状未把握ではあるが、前年度の実績値から推察すると今年度の達成も厳しい状況ではないか。数値目標③「県内特別支援学校高等部（知的障害教育部門）卒業生の就職後の定着率」が達成しているのは良いことだと思うが、プロジェクトのねらい達成のためには、特に数値目標①「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力を高めることができたと思う高校生の割合」が大切だと思うので、前年度から下がっていることは課題であり、対応が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
17雇用	1	関委員	若年者、中高年齢者、障がい者などの希望に応じたさらなる就業の促進について、中小企業との連携も含めて取り組んでいく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
21自然	1	山本委員 北原委員	数値目標③「小網代の森の年間利用者数」について、この取組みを実施していること背景や意義について明示する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト名	NO	委員名	意見	県の対応（案）
21自然	2	北原委員	最終評価欄の指摘事項を具体的に記載する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
21自然	3	伊達委員	プロジェクト事業費と数値目標との関わりが見えず、財政的に無駄の無い取組みがされたかの判断まで踏み込まれていない。「小網代の森」の取組みをサンプルケースとして評価を行うなどの検討が必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
全体	1	山本委員	PJ1の数値目標3「特定健康診査・特定保健指導の実施率」に設定されている目標値は、過去の推移から見ても高めの設定に思われる。適切な評価を行うためにも、計画策定時の目標値の設定水準について、検証する必要がある。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
全体	2	山本委員	PJ15の数値目標②「生徒にICT活用を指導する能力」が高まったと感じる教員の割合」はこれまでの推移をみると、毎年5%ずつ上げるという目標水準の設定のあり方に疑問がある。端的に二次評価をしなければならないということを踏まえると、数値目標の設定については、引き続き検討が必要である。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
全体	3	伊達委員	プロジェクト事業費と数値目標との関わりが見えず、財政的に無駄の無い取組みがされたかの判断まで踏み込まれていない。「小網代の森」の取組みをサンプルケースとして評価を行うなどの検討が必要がある。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
全体	4	山本委員	評価をするうえでは客観的な指標の方が適切かと思うが、「〇〇と感じる人の割合」など主観的な指標を取り上げて評価するのであれば、その指標を評価の基準とする根拠を示す必要がある。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
全体	5	伊達委員	細分化されている財政を柔軟に、横串を刺して融通が利くように対応する必要がある。また予算化の状況を検証する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
全体	6	伊達委員	プロジェクトに対する知識等が蓄積されているのか、組織面・運営面における課題はないのか検証する必要がある。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
全体	7	北原委員	市町村と県の役割分担について、県民に分かりやすく示す必要がある。	二次評価（案）に反映しました。